

新庁舎整備ロードマップ
参考資料(4)

新庁舎整備事業プロジェクトチーム
検証部会資料

令和5年3月

目次

(1) 新庁舎整備事業プロジェクトチーム 検証部会の目的と検証内容	3
(2) 検証部会の概要	4
(3) 各回のテーマ	5
(4) 各回の意見まとめ	6
第1回検証部会	6
第2回検証部会	8
第3回検証部会	14
第4回検証部会	21
第5回検証部会	27
第6回検証部会	31
第7回検証部会	39
第8回検証部会	44
第9回検証部会	50
(5) 検証結果	56

(1) 新庁舎整備事業プロジェクトチーム 検証部会の目的と検証内容

● 検証部会の目的と検証内容

目的: 美濃加茂市が策定を進めてきた(旧)新庁舎整備基本計画(案)が、「なぜ多くの市民との合意を形成することができなかつたか」について、多様な視点から検証し、「多くの市民が疑問に思ったこと」「強い関心を持ったこと」などを明らかにして、今後の新庁舎整備推進に活用すること。

【集まった様々な情報】

- 令和3年度までの市民意見の整理・集計結果
- 令和4年度美濃加茂市役所新庁舎整備における市民アンケート調査結果報告書
- 新庁舎整備事業プロジェクトチーム情報整理部会資料



【検証内容】

- ① 集計・分析された結果から何が読み取れるか
- ② 多くの市民との合意を形成できなかったのはどの部分か
- ③ 市民との合意を形成するためにはどのような進め方が必要か
- ④ 新庁舎の「機能・規模・候補地」に関して何が読み取れるか

検証結果P.56以降にまとめられています

(2) 検証部会の概要

発足 令和4年7月12日

根拠 美濃加茂市プロジェクトチームの設置及び運営に関する規定

メンバー 市職員の課長補佐級、係長級 計5名（市長による任命）

実施回数、期間 実施回数、期間：全9回（令和4年7月～12月）

(3) 各回のテーマ

回数	日時	内容
第1回会議	7月12日 10:00~11:30	<ul style="list-style-type: none"> ・任命書配布 ・新庁舎整備事業の経緯について ・新庁舎整備事業プロジェクト(検証部会)の目的と活動内容について
第2回会議	8月10日 13:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・今までのデータ整理結果から読み取れることのまとめ ・市民と合意形成をする上で明らかにした方が良い事
第3回会議	8月29日 13:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と合意形成をする上で明らかにした方が良い事を、どうすれば明らかにできるか
第4回会議	9月22日 13:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と合意形成をする上で明らかにした方が良い事を、どうすれば明らかにできるか(第3回の続き) ・市民に何を考えてもらうのか ・情報整理部会資料による情報提供
第5回会議	10月6日 13:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート、職員アンケートの結果から読み取れることのまとめ
第6回会議	10月19日 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・今後実施する市民の意見聴取(ワークショップ等)のイメージについて
第7回会議	11月18日 9:00~11:00	<ul style="list-style-type: none"> ・新庁舎ビジョン案について ・名称の変更について ・市民の納得感が得られる新庁舎整備のプロセスについて ・ペルソナのストーリーの挫折のイメージについて
第8回会議	12月2日 13:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> 新庁舎整備ロードマップ(案)について(1回目)・・・新庁舎ビジョン(案)から新庁舎整備ロードマップ(案)に変更 ・新庁舎整備ロードマップ(案)の共有、追加・修正部分等の洗い出し ・機能・規模・候補地について読み取れること
第9回会議	12月16日 13:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> 新庁舎整備ロードマップ(案)について(2回目) ・追加・修正完了 ・機能・規模・候補地について読み取れること

(4) 各回の意見まとめ

第1回検証部会

新庁舎整備事業プロジェクト

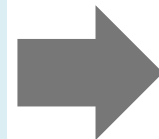
第1回の内容

● 新庁舎整備事業プロジェクト(検証部会)の目的と活動内容の共有

活動目的:これまで策定を進めてきた(旧)新庁舎整備基本計画(案)が「なぜ多くの市民との合意を形成することができなかつたか」について、多様な視点から検証を進める。

集まった様々な情報

- 情報整理部会データ
- 令和3年度までの市民意見の整理・集計結果
- 令和4年度市民アンケート
- 市職員アンケート



検証する内容

- ① 集計・分析された結果から何が読み取れるか
- ② 多くの市民との合意を形成できなかったのはどの部分か
- ③ 市民との合意を形成するためにはどのような進め方が必要か
- ④ 新庁舎の「機能・規模・候補地」に関して何が読み取れるか

● 新庁舎整備事業プロジェクト情報整理部会について情報共有

● 令和4年市民アンケート概要についての情報共有

第2回検証部会

新庁舎整備事業プロジェクト

新庁舎整備に関する5つのテーマ(要約)

市街地再開発

新庁舎と再開発の関わり方をどう考えるか。

市商業ビル

市商業ビルのこれまでの課題を検証していく。
過去の課題を検証する。

都市計画マスタープラン 立地適正化計画

市の全域で人口増加しているにもかかわらず、駅前中心の都市計画となっている。行政の考えと市民の感情にズレが生じているのではないか。

公共施設等総合管理計画

他にも建て直さなければならない、見直さなければいけない公共施設がある。その中で優先順位や財政規模を検討していく。

災害

災害に対して美濃加茂市はどのような街づくりをしていくのか、どう関わっていくかを明確にする。

市民と合意形成をする上で明らかにした方が良い事

明らかにした方が良い事	内容・意図(要約)
一定のスケジュールを示す	いつまでにこういうことを決定するという流れを明確に示した方がよい。
サイレントマジョリティの声を聞く	市民説明会に参加された方だけの意見に引っ張られないようにする。
興味のない市民の意見を表現する	市役所がどこにしろが、あまり興味を持っていない人も多くいる。市役所に来て車が停めればよいと思っているぐらいの人が多く、そういう人々が納得できる方向は、あまり関心を持っていない人の意見ということが言える。
最後の決定方法を明確にする	新庁舎の場所を最終的にどういう手法、段階を経て決断するのかを示した方がよい。
未来のまちづくり委員会の目的・進め方	未来のまちづくり委員会の中で候補地が駅前と決まり、最終答申を出しているが、その過程が不透明になっている。改めて未来のまちづくり委員会の目的とどういう流れで現在の結論に至ったのかを明確にした方がよい。
市街地再開発における市のスタンス	市街地再開発と新庁舎の関わり方の方向性を明確に市民に示すべき。また、候補地を決めるにあたり、特定の地権者が優遇されることは無い、ということをも市民に明確に伝えるべき。
市商業ビルの課題の明確化	市商業ビルの課題が職員もはっきりわかっていない部分があり、市民自体も市商業ビルの課題について把握しておらず、新庁舎整備事業とどうかかわっているか理解されていない。そのため、市商業ビルの課題を明確にした方がよい。
都市計画、立地適正化計画との整合性	立地適正化計画で、居住誘導区域が決められている。農村振興地域も区域が決められているが、開発が進んでいる。計画との整合性がとれていない状態でまちづくりが進められており、その上で庁舎の場所を決めることが市民に理解されていないと考える。

市民と合意形成をする上で明らかにした方がよい事

明らかにした方がよい事	内容・意図(要約)
新庁舎の必要性	新庁舎の建て替えの必要性、説明が不十分になっている。庁舎の規模、今後の仕事のあり方、市民と市役所の関わり方、各連絡所のサテライト機能の計画など様々なことを検討して、新庁舎の建て替えの必要性を明確にし、市民に説明したほうがよい。
1000年に1度の災害についてどう考えるか	1000年に1度の災害が起きた時のリスクマネジメントを行い、行政のスタンスを明らかにすること。
合意された状態とは	どのようになれば「合意された状態」なのかを明確化にする。
市(職員)として新庁舎をどう思うか	市にとって、職員にとって新庁舎とはどういうものなのかを明確にした方がよい。職員が庁舎とは何だと思っているか、というところを理解して、方向性を見せた上で市民に意見を求めたほうがよい。市として、職員全体としての方向性が見えていない状況で、市民に投げかけても市民側に理解されない。
どうやって誰が構想・計画を決めたのか	基本構想、基本計画の経緯について、広報や新聞、HPに掲載されていたが、どういう属性の人がどういう議論をして、どう決定したのかが、あまり公表されていない。
候補地ごとの予算、問題点	候補地ごとの予算の問題点が明確化されていない。4つの候補地で総合的にみるとコストがかからない、美濃太田駅前候補地が良いという結論になっていた。市民から見ると、よくわからないが、美濃太田駅前が良いと映ってしまっている。
市民に何を求めるか	市民説明会や市民アンケートを行って何に活用するのかを明確に示せていなかった。市民説明会ではとりあえず人を集めて、話を聞いてもらい、意見をもらっただけになっていた部分がある。市民の人にも主体的に動いてもらう必要がある、というメッセージが無いまま進めてしまった。
職員の中での方向性を明らかにする	新庁舎は職員が働く場所でもあるので、本来であれば職員がそれぞれの考えを持っていないといけませんが他人事だと思っている職員もいる。なおかつ、市長が思っていることを職員全員が理解していないといけない。そのために市民との合意をとる前に庁内での合意をとる必要があるのではと考える。

市民と合意形成をする上で明らかにした方が良い事

明らかにした方が良い事	内容・意図(要約)
建て替えが必要な理由(誰にとって建て替えが必要なのか)	建て替えが必要な理由が明確であれば、市役所にとって重要な機能も明確になり、議論しやすい。
市役所を含めた市全体のビジョン	市役所の建て替えだけでなく、連絡所等の各地区の機能等を含めた市のビジョンを明確にする。
市役所に必要な機能	市役所に必要な(だと思われる)機能とその優先順位を明確にする。
誰と合意形成をするのか	上記を明確にすることで、誰と合意形成をするのが良いか見える気がする。
合意形成をするべき相手との考え方のギャップ	合意形成をとるべき相手が何を考えていて、訴求ポイントがどこなのかがわからないと合意形成のための準備ができない。
市民意見(市民の声)の反映方法	説明会やアンケートで得た新庁舎に対する意見をどのような流れで反映していくのかを明確にした方が良いと思いました。
候補地となる場所の地権者と市の関係性	駅前を最終候補地とした際、駅前の地権者と市の関係性を疑う声が多くありました。健康プラザ建設時も、病院と市の関係性を疑う声と同じようにあったので、こうしたところはクリアにしておいたほうがよい。
立地適正化計画の内容	駅前を候補地とした前計画は、立地適正化計画と整合しているものと認識しているが、そもそも立地適正化計画自体を理解している人は職員を含めて少ないように思う。新庁舎に紐づくさまざまな計画について、どのようなものがあり、どのようなメリットがあるのかを明確にした方がよい。

市民と合意形成をする上で明らかにした方が良い事

明らかにした方が良い事	内容・意図(要約)
市庁舎(現庁舎を含む)への関心・愛着	市(まち)に対して愛着や誇りを持っている人でも、市庁舎に関しては、そもそも関心がない人が多いと考える。市庁舎(現庁舎を含む)への関心や愛着が、市民の中でどの程度あるのかも明らかになると良い。
本当に必要とする(知りたい)情報	職員側の視点で見ると、広報紙を含め、さまざまな媒体を使って新庁舎の情報を発信をしていたように思うが、アンケート結果等からは発信する情報について不足・不満といった声が多くあった。情報の発信元と受け手でズレがあるため、市民が必要とする情報はどんなことなのかを明確にした方が良い。
現庁舎跡地の活用方法(移転した場合)	現庁舎周辺に暮らす人たちは、庁舎移転後の建物や土地がどうなっていくのかについても関心が高い。そこについても、可能な範囲で市として考えているプランや方向性を示した方が良い。

第3回検証部会

新庁舎整備事業プロジェクト

第3回 市民と合意形成をする上で明らかにした方が良い事をどうすれば明らかにできるか。

カテゴリー	意見内容
カテゴリー① 合意形成までの流れ	①「一定のスケジュールを示す」 ②「最後の決定方法を明確にする」 ③「合意された状態とは」 ④「誰と合意形成するのか」 ⑤「合意形成すべき相手との考え方のギャップ」
カテゴリー② 前提条件	①「新庁舎の必要性」 ②「1000年に1度の災害についてどう考えるか」 ③「候補地ごとの予算、問題点」 ④「建て替えが必要な理由」 ⑤「市役所に必要な機能」 ⑥「現庁舎跡地の活用方法」
カテゴリー③ 市民の意見をどう導入するか	①「サイレントマジョリティーの声を聞く」 ②「興味ない市民の意見を表現する」 ③「市民に何を求めるか」
カテゴリー④ 前提条件として含まれるもの	①「市街地再開発における市のスタンス」 ②「都市計画、立地適正化計画との整合性」 ③「市役所を含めた市全体のビジョン」 ④「立地適正化計画の内容」
カテゴリー⑤ 職員として新庁舎をどう思うか	①「市(職員)として新庁舎をどう思うか」 ②「職員の中での方向性を明らかにする」
カテゴリー⑥	①「市商業ビルの課題の明確化」 ②「どうやって誰が構想・計画を決めたのか」 ③「候補地となる場所の地権者と市の関係性」

カテゴリー① 合意形成までの流れ

カテゴリー①

- ①「一定のスケジュールを示す」
- ②「最後の決定方法を明確にする」
- ③「合意された状態とは」
- ④「誰と合意形成するのか」
- ⑤「合意形成すべき相手との考え方のギャップ」
- ⑥「一定のスケジュールを示す」を明らかにする

どうすべきか	意見要約
議会で承認を得る	新庁舎の建て替えの必要性、説明が不十分になっている。庁舎の規模、今後の仕事のあり方、市民と市役所の関わり方、各連絡所のサテライト機能の計画など様々なことを検討して、新庁舎の建て替えの必要性を明確にし、市民に説明したほうがよい。
前提条件の再確認をする	今の状況と合っていない前提条件を基に新庁舎の建設の話が進められているため、市民が納得していない。前提条件を再確認するスケジュールは改めて必要になる。
たくさんの人に伝わる情報発信をする	行政の情報発信の手段で基本的に今あるもので考えると広報誌が中心になる。新庁舎のコラムを私も広報にいて担当課と一緒に連載してきたが、それが市民に対して全然伝わっていなかったという反省があったため、今後考える必要がある。また、市長の声を通すことで広報誌よりはるかにたくさんの人に伝わるという市の特徴があるので、市長の声に載せて情報発信をする。
誰のための庁舎建て替えなのかを明確にする	誰のための庁舎建て替えなのかということが明確に見えてこないスケジュールや前提条件を設定するのが難しいと感じている。また、それに基づく決め事というのがなされていないと感じていまして、その辺りをまずしっかりと職員を含めて、行政側がしっかりと見定めていく必要があると思う。

カテゴリー② 前提条件

カテゴリー② 前提条件

- ①「新庁舎の必要性」
- ②「1000年に一度の災害についてどう考えるか」
- ③「候補地ごとの予算、問題点」
- ④「建て替えが必要な理由」
- ⑤「市役所に必要な機能」
- ⑥「現庁舎跡地の活用方法」

どうすべきか	意見要約
見せ方や伝え方を工夫する	見せ方や伝え方が全てなのかなと思う。あとは、誰が言うのかの影響も大きい。そういう意味では、発信力がある市長の言葉を通して市民の方に伝える。その上で決定するのは議会である、と考える。
将来を見据えたうえで庁舎の規模や必要な機能を考える	<p>今後の将来を見据えたうえで庁舎の規模や必要な機能を考え直す必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 災害については、地震や水害とかの全体のリスクは考えないといけないが、それに対する庁舎の機能というのは一方で必要なのか、庁舎に絶対限られなくても良いと思う。 • 予算とか候補地とかあるのですがそれぞれの候補地なのかこれから出てくる新しい候補地も含めて最良の案をオープンにしてその中で一番ベストな、一番安いだけでなく機能も含めてベストな場所をプロポーザルで決めるのも良いのではないかと思う。 • 前提条件については全て満たされなければいけないという事ではなく、それぞれの条件に軽い・重いがあり、現在の前提条件について改めて確認したほうがよい。その上で前提条件に“まちづくり”を踏まえた上で市民にいくつかの選択肢を用意して、提示していく。
市民の声を市民に共有する	行政の一方的な情報発信はしているが、市民の声を市民に共有することができておらず、行政が一方的に決めているという感覚になってしまっている。前提条件の段階から市民の意見を踏まえて議論できるとよい。
「建て替えが必要な理由」「新庁舎の必要性」を決めた上で検討していく必要がある	「建て替えが必要な理由」「新庁舎の必要性」というところを決めた上でそこに対して付加していかなければいけない機能、あるいは問題点というのを住民から聞くのか聞かないのかという事も含めて決めていく事が必要だと感じている。

カテゴリー③ 市民の意見をどう導入するか

カテゴリー③ 市民の意見をどう導入するか

- ①「サイレントマジョリティーの声を聞く」
- ②「興味ない市民の意見を表現する」
- ③「市民に何を求めるか」

どうすべきか	意見要約
市民が十分に意見を聞いてくれたと感じてもらえることが大事	市民の声については世代を分けた手法を検討し、色々なツールを利用して市民の声を聞くとよい。あと大事なのはスケジュールをきって、ここまではしっかり意見を聞くというような事を先が見える形にするのが大事だと思う。
市民の意見を市民に可視化する	アンケートや意見交換会、SNSのコメントなど、小さな声も拾っていくことが大事。「市民の声をどう導き入れるのか」については、市民の声を市民と共有してそれに対する市の考えをカテゴリーごとに整理して、各ツールを使って発信し、市民の意見自体を市民に可視化する、見えるようにする。
来庁者のデータを分析して活用する	各窓口に来る人の人数や属性のデータを活用し、来庁目的等を分析することで、サイレントマジョリティーの行動・ニーズを把握することができる。
新庁舎を使うイメージを発信する	市民が新庁舎で手続き以外の事・プラスアルファのことで何をしたいかをもっと取り入れ、使い方を発信し、新庁舎を使うイメージをもってもらおう。
行政側から確実に欲しい意見・情報を取りに行く	ペルソナをしっかり設定した上で意見や情報を取りに行くことが必要。
自分たちの将来の「暮らし」のイメージを持ち、庁舎の在り方をイメージしてもらおう	「暮らし」のイメージの重要な要素として庁舎があると考えたときに、どこに庁舎がある事によって自分たちの暮らしがどう変わるのか想像してもらおう。その上で庁舎の場所や必要な機能を考えてもらおう。

カテゴリー④ 前提条件として含まれるもの

カテゴリー④ 前提条件として含まれるもの

- ①「市街地再開発における市のスタンス」
- ②「都市計画、立地適正化計画との整合性」
- ③「市役所を含めた市全体のビジョン」
- ④「立地適正化計画の内容」

内容

カテゴリー④の「市街地再開発における市のスタンス」「都市計画、立地適正化計画との整合性」「市役所を含めた市全体のビジョン」「立地適正化計画の内容」は、前提条件として含まれるものであるため、前提条件のレビューの際にしっかり提起していく。

カテゴリー⑤ 職員として新庁舎をどう思うか

カテゴリー⑤ 職員として新庁舎をどう思うか

- ①「市(職員)として新庁舎をどう思うか」
- ②「職員の中での方向性を明らかにする」

どうすべきか	意見要約
新しい庁舎の使い方、機能をイメージできるようにする	色々な市町村でまちづくりを庁舎でやったり、コンベンションホールが庁舎にあったりしている。庁舎の一般的な機能に加えてどういう使い方をしているところがあるのかということ職員の中でイメージがあまりできていない。
新庁舎の建設を自分事として捉え、働くイメージを共有する	コロナ禍になり、職員間でのコミュニケーションがあまりできていない。そうした中で、新庁舎については他人事として捉えられている職員が多いため、新庁舎について皆で考えられると良い。
新庁舎をオフィス(働く場)として捉える	新しい職員が入ってこない理由の一つとして、学生は庁舎をオフィスとして見ているところがある。新庁舎を建てかえることにより、質の良い人材の確保につながることを職員の認識の中で共有できるとよい。
新庁舎のビジョンの共有をする	新庁舎で何を達成するのかといった方針を職員の中で合意形成をとり、共有することが大切。

第4回検証部会

新庁舎整備事業プロジェクト

第4回 カテゴリー 意見内容まとめ

カテゴリー⑥

- ①「市商業ビルの課題の明確化」
- ②「どうやって誰が構想・計画を決めたのか」
- ③「候補地となる場所の地権者と市の関係性」

どうすべきか	意見要約
経営状態の明確化	市からのお金がどれくらい使われているか、収入と支出を明確にする必要がある。
市商業ビルの条件・目的の明確化	市としての市商業ビルのメリットや必要性や方向性を明示する。
市民への利用実態の周知	市商業ビルを利用についてどういった方がどのような利用をしているのかというのを示す必要がある。ホールや会議室は結構利用されている方はいるが市民にとってあまり身近でない可能性があるため、どのような使われ方がしているのかを明示すると良い。
公共施設等総合管理計画に沿った整備	かなり複雑かつややこしい話のため、現在ある公共施設等総合管理計画に沿ってルールに基づいて整備を進めていく。
誰もが情報にアクセス可能な状態の整備	情報がしっかり出せていなかったとか、間違った情報を信じてしまったり、情報が得られなかったことにより疑心暗鬼になってしまう事から出てきた問題だと思うため、誰でも差別なく、その情報にアクセスできるようにしておくことが大事になる。
従来通りの説明の実施	今までも説明は尽くしてきているため、従来通りに説明をするが、一定の期間を区切って伝え方を考えて、誠意を尽くして説明する。
決定過程の遡り	「誰が」というところに至るまでに、どういう理由があったのかを整理する。何でこの人達なのかということが説明・エビデンスがいるため、その理由を明確にして理解を得る。

第4回 意見内容まとめ

市民に何を考えてもらうのか

①市民の「誰を」をどのように決めるのか

意見	意見要約
恣意的に選ぶことはNG	市が発信しなければいけないことは透明性があること。
市が主導するのはいいイメージがない	<ul style="list-style-type: none">・今白紙になったのも、市が主導してやったからというイメージが強かった。・市議会との合意が重要。・公募制にすると市の恣意的なものが出てきたり作為的になる可能性がある。・無作為でもよいがいずれにしてもこの選び方・この人を選んだという理由を明確にする必要がある。
市民の声とビジョンのギャップ	市民の声というのが今のニーズという事になってしまうと、行政のビジョンとしては計画にもあったように何十年後かを見ているという事で、この時点でギャップが出てくる。行政とイコールで何十年後かを見据えたビジョンという事を市民から聞きたいという事が共通認識で持っていれば、対象も限りなく近づいてくる可能性がある。
市役所が選ぶ事はしてはいけない	市民の中でも議会があったり、一般の人があったり、大人、子どもがあたりして、もともと基本構想で2050年というものが一つのキーワードになっている。2050年の暮らしをイメージして、建設的な話ができたらと思う。

第4回 意見内容まとめ

市民に何を考えてもらうのか

②市民には何をしてもらう必要があるのか

意見	意見要約
暮らしのイメージをしてもらう	将来の姿を自分事として考えてもらう。それぞれの暮らしがあり、その暮らしをこのまちでしていく上でどういった環境だったらよいのかをイメージできるようになる。
行政が見据える将来と今のギャップを埋めるための学び	行政が市民の今のニーズを知り、行政が見据える将来と今のギャップを埋めるための学びを提供していかないといけない。その上で市民がどう考えるかという行政側の新たな発見があり、行政と市民が納得する双方向の学びができていく。これにはエリアとしての学びもあり、時間軸としての学びも含まれている。 高校生向けには動き出しているが、大人向けの学びの機会がなく、まちに出たときにギャップがある。
必要性や現状の課題の共有	市にはいろんな課題があり将来の懸念があり新庁舎をここに建てる必要があるだと思って行政がやるのでそれを共有してほしい。市民の考えている美濃加茂市と行政職員が考えている美濃加茂市とは全然違うイメージを抱いているのではないかと思うため、そこは同じレベルで理解して頂けるといい。
共有したり関心をもってもらいたい	結局皆さんが言っているのは「共有したり関心をもってもらいたい」ということで、自分のことに落とし込むと、やっぱりこのまちで生活していく上でどうしたらいいのか関心を持ってもらいたい、ということなのかなと思う。市長が経営理念で「孫子の代まで住み続けられるまち」というものがあるので、何かのキーワードを使うならこういう言葉を置いて皆で共有できるといいなと思う。

第4回 意見内容まとめ

市民に何を考えてもらうのか

③市民の意見を市民に共有するにはどうすればよいか、またそもそも可能なのか

意見	意見要約
公開の場で意見を発表する	公開の討論会のような喋る場を作って、皆で喋るイベントを開催する。コンテスト形式のように作文や絵や動画で自分の考えやイメージを皆が見えるところに出していく。いずれにしても、意見を共有することに対してみんなが楽しんだりワクワクする仕掛けが必要。
市が介在しない条件で行う	コーディネーターなどは入れずに、資料と場所だけ提供する形で、結論なしの話し合いの場をつくる。自然発生が一番良いが現実的には難しい。
リアルタイムの意見交換の場	ラジオ、ケーブルテレビなどリアルタイムで発信できるものを使う。場の準備としては市がやることになるが、基本的にはほとんど入らずにそこで何か仕掛けづくりというか、共有できる環境は生み出せる。
アーカイブの一部として市民の生の声を使う	アーカイブの一部として市民の声を目に付くところに置いておく。テーマが庁舎では大きいので、子育てや防災などテーマが庁舎から離れつつも庁舎に必要な機能としてのディスカッションが出来れば盛り上がるのかなと思う。

第4回 意見内容まとめ

市民に何を考えてもらうのか

- ①美濃加茂を学び、その中で自分の将来に向けたストーリーの一つの要素として庁舎というものを位置付ける
 - ②それを考え、意見交換し、自分の考え方を出す
 - ③市民の声を市民が理解する・知る・共有する
- これを繋げることは可能か

意見	意見要約
テーマを設定した意見共有	子育てを例にした学びと共有 ①これまでの子育ての背景、施策を知る(縦のマイナス軸) ②他地区の子育てを知る(横軸の情報共有) ③①と②を踏まえたこれからの子育てのディスカッション(縦のプラス軸) こうすることで縦軸と横軸(他地区)を加味しながらディスカッションができるのではないかと。庁舎のためというよりかは、未来の子ども達のためにという題目で議論して、そこから庁舎に必要な要素を抽出することが出来れば良いと思う。
愛着や誇り、アイデンティティを繋ぐ	まちに対する愛着や誇りがあり、自分だけしか知らないオリジナルな魅力やアイデンティティがあり、庁舎の位置付けというのは、このような人たちの想いを繋ぐ場であり検証していく場であってほしいなと思う。
子供達にこれからの世界や夢とかを美濃加茂市に紐づけて語ってもらう	横軸も全く違うカテゴリーの人達が集まって、例えば外国人と日本人とか、男性と女性、子育てしている方と独身の方とかで集まってそれぞれざっくばらんに話をし、そこに「美濃加茂市のまちの拠点と私」というテーマを貫かせて語ってもらうと、中心拠点が役場・庁舎という位置づけになるのかなと思う。市役所と市民ではなくて、いろんな人が関わって悩みを共有したり解決したりとか、そういう場所が市役所・庁舎であるという未来ですよというのを見せてあげるといいのかなと思う。

第5回検証部会

新庁舎整備事業プロジェクト

第5回 市民アンケートについて意見内容まとめ

内容	意見要約
市民の情報収集の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報発信として利用しやすい媒体」に広報みのかもが多くあって意外。今は情報を取りに行く時代だと思うが、自動的に待っていれば届く情報というものが利用しやすいところに意外性を感じた。 ・ホームページは意外に少ない回答になっていて、新庁舎に関する情報は取りに行くほどのものではないという考え方なのかと感じた。
市民の前提知識の変化によりどう変わるか	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃太田駅が整備地であることについて将来的な公共交通の利便性や、路線価の高い駅前のにぎわいにより税収を確保して各地区の拠点を整備するといったことを説明した場合に、この結果がどう変わるのか気になった。 ・「新庁舎整備において大切にすべき視点」に地域防災拠点があるが、例えば市役所以外の防災拠点があるなどという別の手段を示したときにどうなるのかというところは、前提条件が大きく関わってくる部分のなるのではないか。
現庁舎の利用頻度	<p>市役所の利用頻度で一番多いのが年数回程度、年数回程度なので、そんなに頻繁に利用するものではないと思った。皆さんに市役所が「こうなって欲しい」という希望はあるが、利用頻度が多くないことを考えると、その辺のギャップをどう対応していくのかは面白いところかと思った。</p>
行政として求められる機能	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所にというより行政に対して地域防災という機能を期待しているというのがわかると思う。ただ必ずしも市役所のハードとして(庁舎として)求めているわけではなさそうだという気がする。 市民活動拠点についても同じで、自分の生活に近いところに活動拠点があった方が当然良いと思われる方もいると思う。庁舎に期待しているあるいは市行政に期待しているということを考えると、この庁舎として機能を持たなくても各地域に拠点があるという形でも十分ニーズには応えられる気がしている。
現庁舎の敷地範囲の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・利用頻度が思ったより高い結果だったが、1800人の回答でこれだけの人が市役所に来ればすごいことになっているはずだが、全然人がいない時もあるってどういう事かなということがある。 ・駐車場については生涯学習センターの駐車場を市役所の駐車場と捉えている可能性がある。市役所と言っているのはこの庁舎だけの話で、市民の人達は生涯学習センターも含めてこの敷地全部を市役所と思っているのであれば、そもそも話がかみ合わないのでは、気をつけた方がいいかなと思う。

第5回 市民アンケートについて意見内容まとめ

内容	意見要約
市民説明会	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会参加されていない方が95%いる。みんながよく見る広報みのかもに載っているにもかかわらず「知らなかったよ」という回答が出るということは、情報の出し方もちょっと気をつけないといけない。 ・「説明会を知らなかった」という人が61%いる。「説明会をオンラインで開催する場合参加したいですか」という、問に対しては“いいえ”が53%、参加したいですかというのは半分ぐらいの方が参加したくないという思いがあるという事は、反対はするけど自分は関わりたくない人も一定数いるのではないかと思う。
年代別の求める機能	<ul style="list-style-type: none"> ・重視するもので20代30代の方の回答で2位、3位に入ってくるところがデジタル化なんですね。やっぱり若い方の求める市役所のあり方と、40代以上の方が持っている市役所のあり方は世代間のずれがあるんじゃないかというふうにする。 ・高齢者の方がバリアフリーが上位にくるかなと思ったら意外にこなくて、市民活動の方が先に来ているということで、逆に10代20代の方がバリアフリーを求めるという、世代間の考え方の違いがあるのと、生涯学習センターと市役所がセットだというイメージが強いのではないかなという気がする。
市民の関心層・無関心層	<p>興味がないっていう人は自分との生活に関わりがないと思っているっていうことかなと思っていて、ただそれが良いとか悪いとかではないと思う。無関心層があるのは当然の話なのかなと思っています。そういった市役所に頼らずに自分の生活が完結していくのであれば、それはそれで良い事だといえる部分もあるかと思う。</p>
年代別の結果の活用	<p>回答には世代の偏りがあることについて留意する必要がある。若いこれから担う世代を考えるのであれば、若い10代20代30代40代、そういったところの意見を聞くということであれば、そのあたりの数字を触りながら出した方がいい。</p>
庁舎の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリーではない建物を作る可能性はほぼないため、バリアフリーの意見の多い、少ないをどうこうするのは違うと思う。 ・庁舎としてプラスアルファの機能の部分と窓口など通常の機能の部分は、分けて考える必要があり、今の新庁舎建て替えではなくて、新庁舎のバージョンアップなのか、バージョンアップするかしないのか整理して考える必要がある。

第5回 職員アンケートについて意見内容まとめ

内容	意見要約
職員の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・大切にすべき視点の比較で、市民の方が「財政負担抑制」の順位が高いのに職員の方が順位が低いのはショック。市民の方に自分ごとにしてほしいって思っているよりも、職員がそもそも他人事の職員が一定数いるということがあると思う。 ・市の職員の発言は結構市民の方を左右するときもあるため、職員に対しても丁寧に説明する必要がある。 <p>新庁舎に関わる職員が真剣にまちづくりや庁舎も含めて向き合っていくことは大事だと思う。</p>
担当課の専門性を活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの事業が同じだが、新庁舎整備推進課みたいになると新庁舎はその課の責任みたいになる。本当は別にそういうわけではなくってみんなの問題で、そういう意識があるなっていうのは思う。 ・将来の子育てなどそれぞれの分野でどうなっていくのかは、専門性があるそれぞれの担当課が責任を持って担うべきなのではと思う。
職員の関与のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに決まっていることを自分ごとにするのは難しいため、何らかに関与して自分の思いが反映されるのであれば真剣に考えるのではないか。 ・疑問点や納得いかない部分については説明が必要、反対に対しては説得をしてほしい。決まったことであるならば決まったことに対して説明が必要。
市役所職員としてのビジョン	<p>まちづくりに関する自分の意見を考えて形にすることで市職員としてのビジョンを出していく。市民の方々も市役所職員としてのビジョンというものに興味があると思う。</p>

第6回検証部会

新庁舎整備事業プロジェクト

市民の意見聴取方法 A案

ワークショップ開催案

【基本的な進め方】

年代・性別・居住地の様々な美濃加茂市民のペルソナを考え、ペルソナごとの将来・行政との関わり・美濃加茂の魅力を考えながら、そのペルソナが5年、10年先の希望を実現するためのストーリーをつくりあげる。それぞれのストーリーから行政に何が求められるか、新庁舎はどのような機能でどこにあるべきかを考えることを目標とする。

回数	内容	進め方
第1回～第3回 ・美濃加茂市民のペルソナ構築 ・ペルソナのストーリー構築	<p>①ペルソナの構築 ・各グループごとに与えられたペルソナがどんな人かを具体的に考える。</p> <p>②ペルソナの将来と美濃加茂との関わり ・それぞれのペルソナにとっての将来、行政との関わり、美濃加茂市の魅力を考える。</p> <p>③ペルソナのストーリー構築 ・5年～10年後の希望を実現するためのストーリーを(ライフイベント・挫折含めて)考える。</p>	<p>①ペルソナの構築 事務局があらかじめ性別・年代・居住地区を決めたペルソナを何パターンか用意し、各グループに3つ程度を割り当てる。各グループではそのペルソナがどのような人なのかを考え、ペルソナを完成させる。</p> <p>②ペルソナと美濃加茂の関わり ペルソナを完成させたあと、そのペルソナの将来と美濃加茂との関わりについて付箋で意見を出し合いKJ法によりまとめる。</p> <p>③ペルソナのストーリー 5年～10年後の希望を実現するためのストーリーをライフイベントと挫折を交えて考える。ストーリーは模造紙などにタイムライン形式で記入する。ストーリーを考える上でライフイベントや挫折から考えられる課題は4回目以降に使うためまとめておく。</p>
		<p>あらかじめ設定 ・年齢 ・性別 ・居住地区</p> <p>グループで考える内容 ・名前 ・出身地 ・家族構成 ・仕事 ・似顔絵の作成 ・悩み ・大事にしていること など</p> <p>このペルソナにとっての将来像 このペルソナにとっての行政との関わり このペルソナにとっての美濃加茂の魅力</p> <p>ライフイベント ・結婚 ・進学 ・出産</p> <p>挫折(2回程度) ・病気、けが ・事故 ・離婚 など</p> <p>Goal 目標実現</p> <p>現在 → 5年後 or 10年後</p>

POINT
1

ペルソナとは

「サービスの利用者となる架空の人物像を、具体的なイメージに落とし込んだもの」を指します。

今回の場合は新庁舎を利用する架空の市民像を作ります。

具体例



45歳 既婚男性/製造業勤務 会社員/年収 650万/
4人家族/趣味 読書/居住地 美濃加茂市 古井地区

POINT
2

KJ法とは

断片的な情報・アイデアを効率的に整理し、新しい発想や意見を集約することができるものです。具体的なやり方は次の通りです。①1つの意見・アイデアを1枚のカードに要約して記述します。②類似の意見を1つのグループにまとめ、グループごとに見出しをつけます。③各グループごとの関係性を矢印や記号を用い図解化します。④図解化した内容を文章化します。

市民の意見聴取方法 A案

回数	内容	進め方
<p>第4回 新庁舎の機能、立地条件を考える</p>	<p>ペルソナのストーリーの実現と課題について庁舎の視点でどのような機能、立地が求められるかを考える。</p>	<p>ペルソナのストーリーのライフイベントや挫折から考えられる課題に対して、新しい庁舎という視点でどのような機能などが求められるかを考え、意見交換を行いKJ法によりまとめる。 ※課題に対してすでに実施している市の施策については、新しいものと区別するためあらかじめ付箋形式で用意しておく。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>例:働く世代(男性)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>例:高齢者</p> </div> <div style="font-size: small;"> <p>ストーリーの課題に対して新庁舎のどのような機能でどこにあればよいかを考えてみる。</p> </div> </div>
<p>第5回 新庁舎の機能、立地条件の優先順位決め</p>	<p>4回目で出された機能、立地の条件に対して、ストーリー実現のための優先順位を決める。</p>	<p>4回目で出された機能・立地などの条件をペルソナのストーリー実現のために必要性のあるものという視点で優先順位付けし、整理を行う。 それぞれのペルソナごとに新庁舎の条件として最も優先順位の高い(≡美濃加茂市民のストーリー実現に必要とされている)機能や立地をまとめる。</p>

【市民の参加方法】

第1回は市民の中から無作為で抽出を行い、参加者を募る。

第2回目以降はオープン型の開催とし、途中参加可能とすることで様々な市民の参加を促す。(継続的に参加できる人は前回の振り返りや新規参加の方への説明を担って頂く)




ただし属性の偏りをなくすため、また様々な立場からの学びを促すために子育て世代・外国人・高齢者・若者などから構成されるグループをつくる。

市民の意見聴取方法 B案

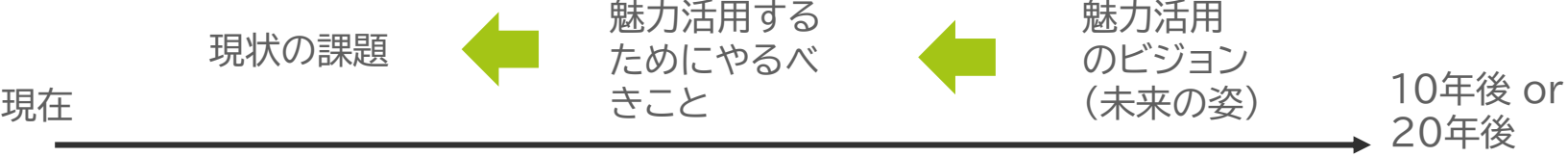
SNSによる意見聴取・ワークショップ開催

【基本的な進め方】

SNSによる市民への周知、拡散の効果をねらって美濃加茂の魅力を市民に発信してもらうことで、ワークショップ参加のきっかけをつくる。また美濃加茂の魅力を今後未来に残していくという視点から今の課題とビジョンを考え、未来のビジョンを実現するための新しい庁舎の機能や条件を考えることを目標にする。

ステップ	内容	進め方
Step 1 SNSによる市民の投稿	市民へのSNSの投稿呼びかけ、投稿の共有	<p>SNS(Instagram、Twitter)で美濃加茂市のヒト・モノ・場所・仕事など市民が魅力と考えるものについて写真付きで投稿やツイートを呼びかけるキャンペーンを一定期間実施。</p> <p>具体的な仕掛け</p> <ul style="list-style-type: none">・ハッシュタグ付き投稿を市民にしてもらう。多くの投稿を呼びかけるために何らかのインセンティブを検討する。・投稿された写真などをWebサイトなどで全て公開し、市民への共有を行う。 <p>→市民の間で主にSNSによる情報の共有をねらう。</p> 
Step 2 投稿された意見の共有とワークショップ実施	ワークショップ(第1回) テーマ:みんなが見つけた美濃加茂の魅力を考える ～SNSの投稿の共有と意見交換～	<p>参加者募集方法:</p> <ol style="list-style-type: none">①SNS(Instagram、Twitter)での投稿をした全ての市民から抽選②SNS、広報での参加呼びかけに応募した市民から抽選 <p>・参加者でグループをつくり、SNSで投稿されたもの(もしくは自分で投稿したもの)をグループで共有し、想いを語りながら自由に意見交換を行う。 (各グループに資料として投稿の写真、投稿へのコメント、特にバズったものを用意する)</p> <p> いいねの数が多い投稿  コメントが多い投稿 など</p> <p>・投稿の中で、何に最も共感するかまた自分が大事にしたいものと考えて、意見交換を行い、KJ法でまとめる。 (未来に残したいもの、今後発展させていきたいものという視点で考えてもらう)</p>

市民の意見聴取方法 B案

ステップ	内容	進め方
<p>Step 3 未来の活用のイメージと課題</p>	<p>ワークショップ(第2回) テーマ:美濃加茂の魅力の未来を考える ～未来のビジョンと課題、やるべきこと～</p>	<p>以下の2つを参加者で意見交換を行い、KJ法でまとめる。 ①各グループで大事にしたいと思った魅力の活用の方向性 どのように美濃加茂の魅力を未来に残すのか(10年～20年後のビジョン)、活用していくうえで何をしていくべきか(やるべきこと) ②美濃加茂の魅力を未来に残す(または発展させていく)うえでの現状の課題</p> <p>ワークショップの流れ 未来のビジョンから逆算する方向でやるべきこと、課題を考える</p> 
<p>Step 4 新庁舎の機能、立地条件を考える</p>	<p>ワークショップ(第3回) ビジョンの実現と課題について庁舎の視点でどのような機能、立地が求められるかを考える。</p>	<p>第2回で出た課題ややるべきことに対して、新しい庁舎という視点でどのような機能などが求められるかを考え、意見交換を行いKJ法によりまとめる。 ※課題に対してすでに実施している市の施策については、新しいものと区別するためあらかじめ付箋形式で用意しておく。</p>
<p>Step 5 新庁舎の機能、立地条件の優先順位決め</p>	<p>ワークショップ(第4回) 4回目で出された機能、立地の条件に対して、ビジョン実現のための優先順位を決める。</p>	<p>4回目で出された機能・立地などの条件をビジョン実現のために必要性のあるものという視点で優先順位付けし、整理を行う。</p>

【市民の参加方法】

第1回のワークショップは市民の中から主にSNSを通じて参加者を募る。

第2回目以降はA案と同様にオープン型の開催とし、途中参加可能とする。(SNS経由で知った方の途中参加も可)

※ただし参加者の属性がSNS利用者層の市民に偏る可能性がある。

第6回 市民の意見聴取方法についての意見

内容	意見要約
情報発信のタイミングと方法	情報発信をするにあたって伝えたい内容を適切な場、タイミング、方法で伝えていくことが良いと思う。そうすることでワークショップの内容を直接ではなく人づてで知ってもらうことができるので、そういうことを大切にしていきたいと思う。
過去のワークショップの結果を踏まえた実施	過去に実施したおでかけワークショップ(外国人、自治会などターゲットごとで実施したワークショップ)があるが、今回は新たに市民意見を聴取するのはそれを踏まえた上での実施となるのか。
ペルソナに該当する人に実際に話を聞く	ワークショップのペルソナを作るところで、ペルソナに該当する人に実際に話を聞いてみるのが必要になってくる気がする。対象の人物像ができていたら、実際はどんなのかという検証ができる。
行政に求められる機能の明確化	A案について、結婚だとか子育てとか人生のフェーズで何が必要なのか、また行政がどこの機能を果たしていくのかを明確にすることが必要。それによってまちの機能も併せて考えることができる。何を必要としているかというところが「未来を考える」という部分に当てはまるので、今のニーズではなくて将来の社会で何が必要かを議論していく必要があると思った。
情報発信の方法	未来の美濃加茂市や社会についてどうなっていくのかという学びの部分を市長や有識者などが対談して発信していくメディアがあれば面白いと思った。
目的の明確化	白紙撤回が決まって、検討委員会などで見直しを進めていくわけだが、その中のアンケート調査などをやる中で、こういうことをするなど明確に伝えていかないと、対象から遠い人の納得が得られないため、十分検討する必要があるというのが大前提。
A案・B案について	A案のペルソナの設定は難しいと思うが、これも遠い人にとっては納得感が得られにくいと思うので、納得感を広げるためにどうやって煮詰めていけばよいかと思った。B案のプロモーションは役所が苦手な部分なので、若い外部の人に仕組みを考えてもらうスキームで進んでいったら面白いと思った。 A案でいうと利用頻度の高い人をペルソナとして設定することで、利用頻度が少ない人達も利用頻度が高い人達の生活をイメージできるかなという副産物が得られる。SNS等を使うので若者の意見というか若者が集まりやすいのかなという感覚です。そうすると、B案というのは若者の参加を促すという効果にもなりますし、将来の利用について、若者に夢をもった発言をしてもらえる。

情報発信の方法(案)

媒体	内容
Webサイト	特設WEBページを作成し、ワークショップの結果を随時公開する。これまでの新庁舎整備の経緯がわかるサイトを作成する。
SNS(Twitter、Instagram)	<ul style="list-style-type: none">・美濃加茂市新庁舎整備推進課のSNSを作成し、日々情報発信を行う。・ワークショップの結果を市長のSNSで発信してもらう。(Twitter、Instagram)・ワークショップ参加者にSNSで情報発信してもらう。
広報誌、DM	<ul style="list-style-type: none">・広報誌での情報発信。・DMを全戸配布した上で、情報が欲しい人にメールアドレスを登録してもらう。
地元メディア	メディア関係者をワークショップに呼ぶことで現場の生の情報を詳しく伝えてもらう。
参加者口コミ	ワークショップ参加までに家族・友人、知人から意見をもらう。(できれば同じ属性の人達から)

新庁舎整備ロードマップ(案)作成のために検討すること

内容	意見要約
ビジョン案という名称について	ビジョンという言葉には語弊があると思われる。内容としてはビジョンを作るための設計図を作るという話だったため、「ビジョンの作り方」など別の名前を検討することが必要なのではないか。
全体のプロセス	白紙に戻したあとにどのタイミングで何をどうやって決定していくのかのプロセスを明確にしていく。
市民の納得感を得る	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見が取り入れられたことによる納得 全ての市民に納得してもらうのは不可能だが、庁舎や未来についてどの部分まで納得をしてもらうかを定める必要があるのでは。 ・学びにより自分の意見が変わったことによる納得 何をどう学んでもらうかの行政側のスタンスを決める必要がある(納得を得るための学びの方向性) 職員や課の知識量・考え方、事業もその方向に基づいて考えないと納得感が得られないのでは。
挫折の経験のイメージの作り方	ワークショップで挫折というところを考えるためには、具体的な内容がないと難しい。挫折のイメージを持って頂くためには、実際に挫折を経験した人の声が大事になる。 ストーリーを考えるうえでは、行政側ができること(現状の支援内容)を用意しておく。または職員がワークショップに参加する。

第7回検証部会

新庁舎整備事業プロジェクト

第7回 意見内容

第7回 (仮称)新庁舎ビジョン案の名称について

意見内容

見通し、スキーム、プラン、プロセス

ビジョン作成の手順書

新庁舎の作り方などを考えていたが、新庁舎だけに囚われない名称がよい(幅広い意味で考える)

ロードマップ(見通しを示す)

市民の納得感を得るためのビジョン案全体のプロセス

内容	意見要約
情報発信のタイミングと市民への共有の方法	広報の毎月の連載で周知するなど大きなアクションを起こして、広報誌で進捗状況を細かく共有する。 今まで作っていた新庁舎整備のかわら版について上手い活用を考える。
タテとヨコに視野を広げる学びを取り入れる	市民の意見を聴取するだけでは今までと同じにとどまる可能性があるため、学びの要素を取り入れるのが重要。 ワークショップの回数について5回では足りない気がしているので、スケジュールがタイトなのではないか。 決定のプロセスで委員会を設けないことで、住民意見として最後に誰が提案するのか気になった。
庁舎の役割を市民・職員が学ぶワークショップ	市民や職員が庁舎の役割を学ぶワークショップに参加し、長いスパンで庁舎の役割を考えることで候補地を決めていく。候補地が決まるのは学びが醸成されるタイミングになる。 庁舎がまちづくりや都市計画に影響する部分は、市が責任を持つ。
前回との違いのアピール	前回の進め方との違い明確にして、今回はこういうところが違うということを訴えていく。 モニター調査をすることで、民意がどのあたりにあるのか裏で調査をして、必要な修正や今後の方針に活かす。

庁舎の役割の見つけ方、役割から候補地へどう結びつけるか

内容	意見要約
市民への役割の提示	庁舎の役割について必要か必要でないかを提起して、拾える部分を提示する。 候補地は物理的制約があるが多数の候補を出し、そこから選んでもらう。
前提条件の抽出	前提条件を抽出して市が案を出す。出された多数の案から市民が学びつつ、暮らしに必要なものを選び出す。
職員と市民のギャップを埋める学び	市職員が考える庁舎の役割は業務が前提であり、市民が考える行政の役割とのギャップがある。 そのギャップを埋める学びをしていくことで納得感を得ていく。候補地は役割の中で行政が担保できているものの中から選ぶ。
庁舎の役割の再認識	庁舎という場所を普通に生活するためのサポートをする場、というように暮らしを助ける場所であるというイメージを提供する。

「共感」と「納得」を得るための情報発信

内容	意見要約
定期的なWS勉強会	日常の自分の暮らしを考えてもらうような勉強会のワークショップを開催する。 ワークショップの作り方として体験しながら学んでもらう。
インタビュー形式の発信(ニュースピックス)	ニュースピックスのような形で気軽にいろいろな人に聞くことで、手軽さ・面白さの要素を入れて自分ごとに捉えてもらう。
双方向の発信	市からの発信は、あらゆる媒体・内容で発信して行って、市民からは自然発生的な発信ができるといい。
情報の具体化	納得というものを与えるために、それぞれの情報から何を得られるかを考えて発信する。

ワークショップの対象の「団体」とはどのような人たちか

意見内容

専門的な考え、目的意識を持っていて活動している団体

市と市民の間に立ち位置があり、住民が個々で担えないような公共の役割を担っている人たち

求める利益が具体的な人たちの集まり

意思や目的を明確に持っている人たちの集まり

ストーリーの挫折のイメージをどう作るか、どう見つけるか

意見内容

挫折をした人を助けるために市役所がフォローに入るため、フォローした職員からヒアリングする

職員にヒアリングする。聞き方として「挫折」はネガティブな印象を与えるため、人生における転換期においてどう困ったとかポジティブな聞き方をする

ワークショップで、「あなたが途方に暮れたのはどういうときですか」という意見を出してもらって、10人いれば10人のパターンを出す

第8回検証部会

新庁舎整備事業プロジェクト

新庁舎整備ロードマップ案への追加項目 各委員意見

項目	意見要旨
第2章 (1)ロードマップ	「市民参加」というメッセージがとても弱く感じる。市民が主体的に参加しているという感触が得られていない可能性があるため、他自治体のような市民討議のような全体で議論しているというイメージ作りが必要なのでは。
第2章 (3)候補地選定について	コスト的な部分の再検討(新庁舎が建つ場所)
第2章 (1)ロードマップ	情報発信について追加・・・広報紙の連載(1P程度)で進捗状況を常に紹介／ケーブルテレビやコミュニティFMでの進捗報告／かわら版HP掲載・自治会回覧、新聞折込、SNS発信【年4回以上】 ※新庁舎整備に関する情報(これまでを含む)のプラットフォーム(土台)となるような独立したWEBサイトおよびSNSアカウントを開設してはどうか
第1章 (1)策定の背景	この背景だと、地震に耐えられる強固なものをつくるというイメージを持つ。どれだけ強固なものをつくっても、どんな災害にも耐えられるものをつくることは困難であると思われる。むしろ、機能分散やリスク分散を連想されるものの方が良い気がする。各地域の機能を充実させることで公平感を持ち冷静に庁舎移転の話ができる気がする。
全体について	職員向けと市民向けを分けて作成する。
第1章 (1)策定の背景 旧基本構想コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・まちが元気になる庁舎は、「住民の活動をサポートできる」とか、「住民と又は住民同士で情報共有や議論ができる」みたいな内容が良い気がする。市役所ができることで賑わいが生まれる、儲かるみたいな図式は無い方が良い気がするため。→市民が集う開かれた庁舎に重なる。 ・安全で安心な庁舎は、「災害に耐え」では方針に合わせることは難しい気がする。「災害に対応でき」とかが良い気がする。「地域防災拠点」は市役所みたいなイメージがありますが、各交流センターとかと差別化するなら違う表記が良い気がする。 ・持続可能な庁舎→孫子の代まで考えた庁舎という内容を追加したい

新庁舎整備ロードマップ案への追加項目 各委員意見

項目	意見要旨
第2章 (1)ロードマップ	庁舎では無く、市に求めることが何なのか→市がやるべきことか住民がやるべきことを整理→庁舎に必要な機能、前提条件を明確にする。これを行うことで、庁舎だけでなく、交流センターなど、関連施設の機能なども明確にすることができる。また、これを合わせて公表することで、不安や不満も解消される。
	庁舎についてのワークショップは人が集まらない。前提条件を整理した上で、その条件にあった場に出向きWSを実施。「これからの子育て」「これからの商店街」「これからの防災」など、将来を考える学びを与えた上で、ヒアリングができる方が良い。
	庁舎関連の投稿はHP、SNSどちらも興味のある人しか見ない。上記の学びコンテンツをメディアとして、これからの美濃加茂市を考えるメディアをつくる。News-Picksのように様々な分野の学びが得られるもの。このメディアをプラットフォームにしたWSなども開催できる。
	候補地を選定するために前提条件や市役所の機能が明確になっている。機能なども含めて合意をとれると良い気がする。そうするともう少し時間をかけて説明会等を進めた方が良い。
第2章 (2)市民意見の聴取について	【内容】 「学び」があってから聞くというのが最大の違いになる。いかに多くの方に学びの機会を与えられるか、そして孫子のことまで考えた上で議論できるかが大事。
	【手段】 庁舎では無く、これからの美濃加茂市を考えるワークショップにする必要がある。
	【情報発信】 発信はSNSで良いが、SNSだと時系列で情報も整理されていないため、WEB上に整理されたメディアが必要。上記メディア内でコメント可能にする。

新庁舎整備ロードマップ案への追加項目 各委員意見

項目	意見要旨
第1章 (1)策定の背景	「基本構想」「基本計画」がそれぞれ”なに”を定めているのか説明が必要。 「構想」「計画」「ビジョン」「コンセプト」色々出て煩雑な印象となる。白紙になった経緯、理由の説明の追加。
第2章 (1)ロードマップ	今までとの違いを提示することが非常に重要。
第2章 (7)整備地決定後の進め方について	全体を通して外部の識者の意見等で中立性を担保することも検討の余地がある
第3章 参考資料 情報整理部会資料	情報の出し方(内容)は精査が必要ではないか。公開を前提としたオフィシャルな意見としての資料の作成を行っているか。

(仮称)新庁舎整備ロードマップ案への各委員意見

内容	意見要旨
情報発信のプラットフォーム	新庁舎整備についてアンケート結果やこれまでの経緯などオープンに公開して、気軽にアクセスできるプラットフォームを開設したらどうか。それによって他の人たちがどういう思いを持っているかが紹介できる。
	今までは広報など情報がばらばらに発信されていて、たどり着けないこともあったと思うので、まとまっていれば情報としてわかりやすい。ただし学びの部分からは切り離されたところにあるので、入口としてはプラットフォームの外にあるとよい。
	大きい情報が一月や半月で更新されると見ないので、毎日少しだけ見れるような情報を発信していったら、ちょっとずつ蓄積していく。またプラスαで学びの部分が入るような工夫があってもよい。
(旧)基本構想のコンセプトの整理	(旧)基本構想のコンセプトの部分にビジョンに該当するものと、前提条件になるものが混ざっている。その条件の整理が再度必要。
市役所と新庁舎の役割の明確化	市役所と新庁舎の役割には、まず市役所の役割があってその中に新庁舎が含まれる。その役割が明確になって機能、規模があるという構図になるので、その辺りの前提条件の整理がつかないのが大事なところ。
新庁舎事業の経緯について	庁舎の耐用年数など新庁舎の必要性を強調する文言は理解しやすくする。年表の中の大きなイベントは大きく表示するなどわかりやすくする。
見直しの経緯について	合意形成に至らなかった経緯などの見直しまでのプロセスが抜けている。

(仮称)新庁舎整備ロードマップ案への各委員意見

内容	意見要旨
決定を後戻りしないための仕掛け	議会では整備地としての決定しかできず、候補地の議決は条例で定めている範囲を超えているので、議会での決定は不可能。
ミニマム&ベーシック	新庁舎として既存のベースとなる役割と新たな役割のどこまでを担うのか整理が必要。既存の役割のみのほうが最もミニマムになる。プラスαの部分は新庁舎の役割というのを最初に理解して勉強しておくことが必要。
相手に情報を知ってもらうインタビュー	相手から意見を引き出すことによるこちらの学びが目的ではなく、聞かれた相手にとって学びになるような仕掛けを入れて、知ってもらうことを目的として情報を取りに行く。

第9回検証部会

新庁舎整備事業プロジェクト

新庁舎整備ロードマップ案へ踏まえるべきこと・視点

- ① 孫子の代まで考えた新庁舎にする
- ② 分からないことをOPENにする
- ③ 市民と市職員が進捗を共有する
- ④ スマート化の反映
- ⑤ 評価指標を再考する

機能・規模・候補地について読み取れること

資料	今までの市民の声から「機能・規模・候補地・その他」について読み取れること(今後対応すべきこと) 【機能】
-----	令和3年度までの市民意見の整理・集計結果(1)-1と(1)-2を比較すると、機能、場所、ワード等にそれぞれ固有の特徴がみられる。(旧)新庁舎整備基本計画(案)にネガティブな意見が多くみられる。改めて要因の確認を行う。
参考資料(1)-1 P9	現庁舎には無い機能、新たに使いたい機能を求めているように読み取れる。
参考資料(1)-1 P19	市役所に市民が利用できる場所が求められている、という読み方も出来るのではないか。
参考資料(1)-1 P21	「利用スペース」「市民が自由に使えるスペース」の内容、どのように使うのか内容を確認できれば、具体的な次へつながる。
参考資料(1)-2 P18	テキストマイニングより、「拠点」と「非常」「防災」「サテライト」が結びついているため、現時点における災害時の文化の森の役割(災害拠点となること等)について広く市民に周知する必要がある。
参考資料(1)-1 P9	市民利用スペース、フリースペース⇒“解放感”が求められている、現庁舎は狭い。
参考資料(1)-2 P52	駐車場(使い勝手)
参考資料(2) P21～	選定において防災面が重視されている。
参考資料(1)-1 P9	前提条件を持った上で聞く必要がある。
参考資料(1)-1 P21	市民利用スペースは、本当に新庁舎内に必要なのか。駐車場の稼働率はどれくらいなのか？生涯学習センターの機能をどこにつくるかで話が変わってくる。
参考資料(1)-1 P35～49	庁舎の目的や前提条件を決めれば有効なデータになる。
参考資料(1)-1 P51	来庁者アンケートの母数が少ない。
参考資料(2)	防災は庁舎だけでなく、各施設との連携も含めて考える必要有。
-----	全体、必要な機能は多岐にわたる可能性がある。時代が大きく変化していく中では柔軟性のあるづくりが必要だと思われる。

機能・規模・候補地について読み取れること

資料	今までの市民の声から「機能・規模・候補地・その他」について読み取れること(今後対応すべきこと) 【機能】
参考資料(1)-1 P8.9	場所よりも機能優先。特に市民利用スペースが必要(複合施設を望んでいる。又は生涯学習センターと庁舎の両方を建て替えると思っている?)
参考資料(1)-2 P22.23	防災面(特に9.28の印象が強い)の対策が必要。浸水想定区域と利便性のある駅周辺との調整(資料(1)-1 P7.8 整合性)を図る必要がある。
参考資料(2)P17	1位が地域防災拠点である。庁舎に防災機能を持たせるか、庁舎と別に防災拠点を設けるか市としての考え(前提条件)を示す必要がある。
参考資料(2)P17	2位が市民活動拠点であるが、具体的にどのようなニーズがあるのか調査が必要である。市民活動拠点を庁舎と切り離して考えるか庁舎の中に設けるか市としての考え(前提条件)を示す必要がある。
参考資料(3)P58	現庁舎周辺及び駅周辺は木曾川浸水想定区域内であるため、防災システムなど防災機能は浸水の影響を受けない階への設置や別の防災拠点が必要である。垂直避難などのソフト対策も必要である。

資料	今までの市民の声から「機能・規模・候補地・その他」について読み取れること(今後対応すべきこと) 【規模】
参考資料(2) P25~P28	参考資料(2) P25~P28で見られるように分散型の市役所は人気がない。

機能・規模・候補地について読み取れること

資料	今までの市民の声から「機能・規模・候補地・その他」について読み取れること(今後対応すべきこと) 【候補地】
参考資料(1)-1 P10	候補地のアンケートについて、「固有の場所」と「~のような場所」が同じテーブルで比較されている。アンケート結果と結果による分析は整理して行うと良い。
参考資料(1)-1 P12	庁舎の場所と関係性の低い課題や場所固有の課題ではないものもある。アンケート結果と結果による分析は整理して行うと良い。
参考資料(1)-2 P41	美濃太田駅周辺に一定の支持がある。
-----	全体 庁舎に必要な機能や規模が決まってからの議論になる。
参考資料(1)-1 P10.11	場所は美濃太田駅周辺(車だけでなくその他の公共交通機関の使える利便性)。前平公園は周辺に何も無いイメージであり、かつ車でしか行けないところを避けた方がよい。
参考資料(1)-2 P33	理由4より、納得できる候補地別の費用算出が必要である。
参考資料(3) P62	前平公園は液状化の可能性があるため候補地選定にあたり詳細な調査が必要である。

資料	今までの市民の声から「機能・規模・候補地・その他」について読み取れること(今後対応すべきこと) 【その他】
参考資料(1)-2 P21	「結論ありきの説明」と感じるに至った要因の確認。未来のまちづくり委員会の答申や、評価指標の結果によるものでは、納得感に至らなかった。評価指標の見直しが必要ではないか。
参考資料(2) P21	新庁舎の建設エリアで重要視する視点より、防災面の安全として、おそらく浸水害の危険性が懸念されており、ネガティブな川のイメージが先行しがちだと感じるが、川とともに発展してきたまちの歴史や景観としての川の魅力など、川のポジティブな面についても、市民が学び考えることができる機会を創出する必要がある。
参考資料(2) P4 1-3	国籍より市の人口の一割弱を占める外国籍市民について、意見集約及び情報提供が十分でないと感じるため、今後の広報及び広聴の方法を検証する必要がある。
参考資料(1)-2 P30	新庁舎整備に関する情報は、できる限り、リアルタイムで進捗状況をオープンにしていく必要がある。

新庁舎ロードマップ案への各委員意見

頁数	意見要旨
P3	(旧)新庁舎整備基本計画については市民に公表されていないが、文言はこれでよいのか。(案)をつけた方がよいのでは。
P4	コンセプトについて市民の皆さんの声に基づき決めるという表現で問題ないのか。
P6	これまでのプロセスと新しいプロセスを比較するのであれば、どのようなプロセスで構想を作成したのかを記載したほうがよい。
P7	どのタイミングに学びがあるのか分かりづらい。前提条件がどのタイミングで決まるか。
P7	社会の役割を考えるとというプロセスを入れたほうがよいのでは。
P7	進捗管理を行い、適宜修正しながらやっていくという記載をどこかに入れたほうがよいのでは。
P8	市民の役割が記載されていないが、市民の役割を入れた方がよいのではないか。
P10	共通認識とするという図が分かりにくいので、修正して欲しい。
P11	新庁舎の役割に既存の役割、新たな役割が全て含まれていなくてもよい。
P13	前提条件に法律・予算的な話を含めたほうがよい。また、具体的に書きすぎないほうがよい。

(5) 検証結果

①集計・分析した結果から読み取れたこと

市民アンケート結果から読み取れること

- 新庁舎整備において大切にすべき視点では、「市民の暮らしを守るため、地域防災拠点として機能する庁舎」の回答が最も多くなっており、年代別・居住地区別でも同じ傾向になっているため、市民にとって非常に重視されている視点であることがわかります。新庁舎の建設エリアで重要視する内容についても防災面の安全を重要視している回答が最も多くなっています。

職員アンケート結果から読み取れること

- 新庁舎整備において大切にすべき視点では、市民アンケートと同様に「市民の暮らしを守るため、地域防災拠点として機能する庁舎」の回答が最も多くなっています。全体の傾向としては、地域防災拠点に次いでバリアフリーとデジタル化が多くなっており、庁舎のバリアフリー化とデジタル化が職員に重視されていることがわかります。

②多くの市民と合意を形成ができなかった主な理由

①決定のプロセスが不透明

(旧)基本計画(案)を作成する際に委員会の中で整備地が駅前と決まり、最終答申を出しているが、その過程が不透明になっている。行政が新庁舎の場所を最終的にどういう手法、段階を経て決断するのかを示した方がよい。

②市民意見の聴取不足

これまでの新庁舎整備事業のプロセスでは、ワークショップやアンケート調査、市民説明会など意見や考えを聞く場はあったが、どれも一方向での意見を伝える場となっていた。その結果、市民が伝えた意見がどう反映されているのか不明瞭となるとともに、市側の方針に対して市民の意見をいう場がないと感じた市民が多く、上手く合意形成することができなかった。

③情報の発信不足

これまでの新庁舎整備の状況について広報誌を中心に情報発信を行ってきたが、多くの市民に対して伝わっていなかったという状況がある。特に、(旧)基本構想、(旧)基本計画(案)の経緯について、広報や新聞、HPに掲載されていたが、どういう属性の人がどういう議論をして、どう決定したのかが、伝わっておらず合意ができていない理由となっている。

④機能・規模・候補地などの課題の情報提供不足

新庁舎に関する機能や規模、候補地などの課題の前提条件を市民に広く情報提供し、理解を得ることができなかった経緯があった。また候補地別の費用の算出の仕方に対しての指摘意見が多く、合意形成ができなかった理由となっている。

③市民との合意を形成するために必要な進め方

①新庁舎整備の進め方の明示

これまでの新庁舎整備事業では、決定までのプロセスが不透明な部分があり、多くの市民が知らない状態で事業が進められていた。これからの新庁舎整備の進め方についてはプロセスを明示化し、市民全体に共有して、新庁舎整備を一緒に進めていく指針を打ち出したほうがよい。

②市民と対話する

これまでのプロセスでは、一部の市民にしか情報共有されていなかった経緯があり、新庁舎整備について多くの市民が説明不足に感じていた。また、市側の意見を聞く機会だけでなく、市民の意見を聞き入れ対話する場を求めている声が多かったことから、今後のプロセスではワークショップをベースに市民との対話を行った方がよい。

③情報発信を強化する

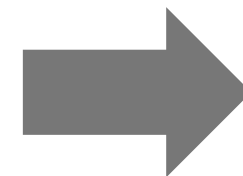
これまでの情報発信は、市ホームページへの掲載と広報紙への連載が中心となっていた。今後の情報発信は、進捗状況に合わせた最新の情報をより詳しく広報誌への連載をするとともに、自治会回覧・ケーブルテレビ・SNS・ホームページなど複数の方法で発信したほうがよい。

④前提条件の情報共有

市民への情報提供は、情報の根拠を明確に示し、わかりやすい方法で行う必要がある。候補地ごとの課題や新庁舎に関係する自治体経営の情報などを誰もがアクセスできる形で共有することが重要である。

④新庁舎の「機能・規模・候補地」に関して読み取れたこと

新庁舎は今後の将来に柔軟に対応できることを前提とし、新庁舎の機能・規模・候補地を決定する際には段階ごとに前提条件を整理する必要がある。



前提条件

- 新庁舎を整備するコンセプト
 - 新庁舎に必要な機能
 - 各種行政計画
 - 市民意見
 - 予算
- 等

機能

- 将来を見据えたうえで新庁舎に必要な機能を考えることが必要。
- 市に必要な機能と新庁舎に必要な機能をわけて考えることが大切。

規模

- デジタル化の加速により、新庁舎に必要な面積の縮小が考えられるため、ミニマムな庁舎をベースとし、時代の変化に柔軟に対応できるようにする。

候補地

- 機能、規模が決定したうえで候補地案を決定する。
- 様々な前提条件を踏まえた上で前提条件を満たす候補地案を検討していく必要がある。